

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	平成28年度第1回高松市在宅医療連携会議
開 催 日 時	平成28年5月18日（水） 19:00～20:15
開 催 場 所	高松市医師会館 2階 大会議室
議 題	1 新委員の紹介について 2 在宅医療コーディネーター養成研修（第6回）の報告について 3 平成28年度在宅医療・介護連携推進事業の事業計画について 4 医療介護情報便利帳作成の進捗状況の報告について 5 シンポジウムの開催（案）について 6 部会について 7 その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出席委員	14人
	吉澤委員長、大原職務代理、大橋委員、三宅委員、坂東委員、木村委員、安藤委員、多田委員、松本委員、青木委員、永岡委員、辻委員、中村委員、片山委員
関係者	市医師会事務局（3人） その他：伊藤副会長、県随行（1人）
傍 聴 者	0人
担 当 課 及 連 絡 先	長寿福祉課 地域包括ケア推進室 839-2345 介護保険課 839-2326 地域包括支援センター 839-2811 保健対策課 地域医療対策室 839-3805

協議経過及び協議結果	
1	<p>新委員の紹介について（資料1）</p> <p>○事務局から、新委員の紹介がある。 →質問等なし</p>
2	<p>在宅医療コーディネーター養成研修（第6回）の報告について（資料2）</p> <p>○委員長から報告がある。 →質問等なし</p>
3	<p>平成28年度在宅医療・介護連携推進事業の事業計画について（資料3）</p> <p>○事務局より資料3の説明がある。</p>

→質問等なし

4 医療介護情報便利帳作成の進捗状況の報告について（資料4）

○事務局より資料4の説明がある。

(A委員) 去年1年間コーディネーター養成で現場の方々に勉強をしてもらったので、できればコーディネーターの人がコーディネートしやすいものにしていただきたいと思います。かかりつけの先生方の実際の医療情報をピックアップして、実際にかかりつけの先生がどのくらいでやられているのかなど、参考になるような便利帳になればいいのかなと思います。

(委員長) ここに書いてありますように、医師会、歯科医師会、薬剤師会はそれぞれアンケートを開始しておりまして、各医師会のブロックの代表者会がありまして、周知もさせていただきました。その中の質問で、在宅の定義を教えてくださいとか、往診の回数はどのように数えるのかとかという質問がくるくらい真剣に考えてくれているようです。アンケートが戻ってきてから、この便利帳の部会の先生方に、どういう掲載、編集にしていくのか、内容を決めて頂ければと思います。今はアンケートをやっている状況と、先ほどのインフォーマルの情報収集をやってくということ。是非先ほどのスケジュール通り、シンポジウムの時には、お披露目ができるような状態でやっていきたいと思っています。

5 シンポジウムの開催（案）について（資料5）

○事務局より資料5の説明がある。

(A委員) ギャラをこんなに出さないと出てきてもらえないのかというところが気になります。

(委員長) ギャラの面は、当初シンポジウムと多職種連携と一緒にやって浮かそうかというお話もありましたが、便利帳のお披露目も兼ねまして、ちょっと派手にしてもいいのではないかと思います。決して無駄使いではないと思いますし、この相場というのも芸能人となりますと、途端に跳ね上がります。

(A委員) まだ変えられますか。金子哲雄さんの奥さんはどうですか。

(委員長) あの講演はコーディネーターの皆は松山で聞いたのですが、確かに面白い講演でした。

(A委員) もしまだお金があるのでしたら、市民の方への周知用のチラシの予算が12万円というのは少し寂しいのかなと思います。四国新聞とかの広告に出すなど、もう少し宣伝の方にも力も入れていただければと思います。

(事務局) 予算的にはシンポジウム全体で200万程度を考えているのですが、広報の方法といたしましては、広報の掲載とか、四国新聞、健康新聞、医療機関等にポスター、チラシとかも考えているところですので、予算の枠内で検討していきたいと思っています。

(B委員) 私もかかりつけ医の研修会で芸能人とかも呼んでいるのですが、60万～1

00万の間が多いです。ただ、一般の講師の方と比べると高いとは思いますが。落合恵子さんの介護の話は聞いたことないので、聞いてみたいと思っております。

(委員長) 他に何かご意見ございませんか。

この運営につきましてはこの中で検討していき、我々の事業の追い風になるような講演、便利帳のお披露目ということでやりたいと思います。

6 部会について

○C委員、委員長より資料6の説明がある。

(D委員) 退院支援医療介護連携部会の対象となるのは例えば医療機関の退院支援のスタッフと、介護と言えばケアマネジャーさんと思っています。しかし、大人数で1つの事例をグループワークとするのか、ということもありますので、どういう仕組みで選ぶのか、エリアごとに分けるとか、ケアマネジャーさんだけにするとか、どのくらいの数で運営するかというのを決めていければと思います。

(委員長) 確かに、今までの多職種連携の会を開きましたら、最初にF先生がしていただいたものも沢山のケアマネジャーさんが集まってきました。決して集まっていたくのが悪いわけではないのですが、そうなると単なる講演会、パネルディスカッションで終わってしまいますので、本当の上での顔の見える関係にはならないと思います。この間の研修会では非常に顔の見える関係になって良かったと思います。どこから来られているか、どういうのが専門なのかとかも分かって、できたらああいう形にならないかと。打ち合わせ会もメンバーを選ぶというところがなかなか難しいと思います。あまりに大勢でも顔が見えないので、人数はどのくらいがいいのか、どこに招待状を出すのかなど、9月までの間に決めていければと思います。本当に顔の見える会にしていけないといけないと思いますので。

(C委員) 高松市は非常に地域が広くて、そこをどうやっていくのかというのが大きな課題だと思いますので、退院支援と医療介護連携部会に入っていただく方と詰めていこうと思います。そこに在宅医療コーディネーターがどういう役割をするのかということも併せて考えていかないと、地域の中で自分たちが担っている役割を分からないといけないと思います。

(A委員) どういう運営をするのかというのは難しく大変だと思うのですが、在宅というのは数ではなく質だと言われているので、機械的な連携会議は作ってほしくないです。退院する時に病院側としてはこういう問題があるとか、受け皿としてはこういう問題があるとか、問題提示をしっかりと上で、どのような意見がでて、どのような結果になって、それを後日報告する場にさせていただきたい。実際の問題点を在宅の医療の質をいかに確保して結果を出せるのかというところを、考えていただければありがたいと思います。

(委員長) 確かにそういうやり方もあります。本当に顔が見えて、実際の症例がどうなのか。そこで何か解決するように、長期入院をしている方がこの会議をきっか

けに新しい生活の場が見つかるようなものになればいいと思いますし、個人的にはこの打ち合わせ会を将来的に高松市医師会が作るかというのは今考えていますが、在宅医療相談支援センターの活動に繋がっていけばいいのではないかと思います。打ち合わせ会というのが在宅医療相談支援センターに名前を変えて、そこに集まってきて、退院調整を出す側、受ける側がその場所に来て相談して、機器の貸し出しや、往診体制の構築など、そういったことができる話し合いのきっかけの場になれば、と考えています。

(A委員) 長期入院だったら、なぜ長期入院を余儀なくされているのか。長期入院せざるを得ない原因を考えていただいて、こういう理由があるからできないといった時に、何かサービスができるようになったら、家に帰れるのか、そういう問題提示をしてほしいのです。問題が漠然としているので、結局在宅が無理で終わってしまうので、その次のステップにいかないのです。そういうのは1つの病院では絶対解決できないので、こういうような多職種の方が意見を出し合っ、その方にとってプラスの環境作りをするというのは、こういう場でないと意見ができないので、そういった問題提示をしていただければありがたいと思います。

(委員長) それぞれの病院には困難事例というのを少なからず抱えていると思いますし、これまで経験があると思いますので、具体的な症例として当番制を決めて、やっていければと思います。

(委員長) 新しく同時に始まります、認知症のサポートチームのことも、当然認知症のことが問題になってくるかと思いますが、いかがですか。打ち合わせ会とか退院支援に認知症の地域から誰か入ってこられるとか、何かそういったアイデアか何かはありますか。

(E委員) 初期集中とか。ただ高松市で検討委員会がもたれると聞いているのですが、まだ実際には動いていないのですか。良く分からないので教えていただければと思います。

(事務局) 初期集中の方が10月からスタートの予定ですので、夏くらいを予定しております。

(E委員) まだスタートしていないのですが、仲間に入れて頂ければありがたいと思います。

(委員長) 新しい委員の方も入られて、まだ全体像を掴めないところもあるかもしれませんが、この委員会は1年が終わるまでではなくて、おそらく5年10年と続けいかなくてはいけないし、我々の世代だけでなくどんどん次の世代がやっていけるような高松市としての大きな会議だと思っています。これからどうやって育てていくかというところが大事かと思っていますので、試行錯誤を繰り返しながら、やっていけばいいのではないかと思います。長続きするもの、形が残るようなものをモットーとしてやっていきたいと思っています。

次回の日程調整

平成28年度第2回高松市在宅医療連携会議を、平成28年7月20日（水） 19:00～
高松市医師会館にて開催することとなる